



「落ちないで！」
息を吹きかけ
こまを戻す



「ブラボー！並んでる。」「すごい！ブラボー」



布テープとこま板の段差を確かめる



「ぼくの紐は長くて面倒くさい。でも長く回る」



登園時、保育室の環境構成
～坂道のこま板～

CASE 16 4歳児

「The Open House」
「ブラボー！」

協力園
大分大学教育学部
附属幼稚園

（幼児の実態）
2学期の終わりに、子どもたちにサンタさんからこまがプレゼントされました。冬休みに、家でたくさん練習した子どもたちは、3学期になって、広い場所で一緒に回したり、誰が長い時間回るかを競ったり、こまの芯棒を逆に回す方をしたりして楽しんでいました。
積木や土遊びで坂道を楽しんだB児は、「坂道で回したい」気持ちを保育者に伝えます。保育者が、斜面（坂道）を登場させると、子どもたちは、坂道を滑りながら回ったり、坂道から途中床に落ちても回ったりするこまの動きを楽しんでいます。

この朝、ふじ組の部屋には、二つのこま板が準備されています。一つは、テーブルの片方の脚を折りたたみ、その傾きに合わせた長方形のこま板。もう一つは、床に置かれた正方形の平面のこま板。ベニア製のこま板のへりにはそれぞれ、青・黄色の布テープで縁取りをしてあります。

A児は、登園と同時に斜め（坂道）のこま板に釘付けです。素早く着替え、自分のこまを用意し、さっそく坂道の上から投げつけて回します。うまく着地したこまは、回りながら坂道を滑っていきます。勢い余って坂道の外に飛び出したこまは、床でも回り続けます。「落ちても回るね。」と、床に寝そべり、こまに顔を近づけて見えています。「ぼくのひもはね、回しすぎて切れてしまっ、お母さんが買ってきてくれたんだ。みんなのより長く巻くのが面倒くさいけど、その分長く回るんだ。」と、ひもの秘密を友達や保育者に伝えながら固く巻くA児。保育者は、「そうなんだ。」と、A児の話を聞いています。

二つのこま板は、遊び方や人数によって子どもたち自身が移動させやすい大きさや重量で作られています。やがて、A児たちは、長方形のこま板を緩やかな坂道へと置き換えていました。こまは、朝の急な坂道に比べゆっくり滑っていきます。

遊んでいるうち、A児の投げたこまが、偶然、こま板の青色布テープの内側で回り始めました。回りながら青色布テープの内側に沿って、坂道を通り過ぎてゆっくりに滑り始めたのです。じつと見ていたA児は「えっ、こんな所で回るんだ。」と、こま板と布テープの数ミリの段差に気付く、こまが通って行った跡を指先で確かめています。そして、「見て、見て、すごいよ。」「ここで回ってるよ。」と一緒に遊んでいたB児に声をかけます。

B児は、布テープに沿って回りながら真つすぐに移動するA児のこまをしばらく見つめます。そして、「ぼくも。」と、急いでこまひもを巻き、布テープ近くにこまを投げます。しかし、1回目は、坂道の外へ出てしまします。「今度は。」と、B児は、緩まないようしっかりと紐を巻きつけて投げますが、2回目もこま板の真ん中近くで回り、なかなか布テープの傍では回りません。

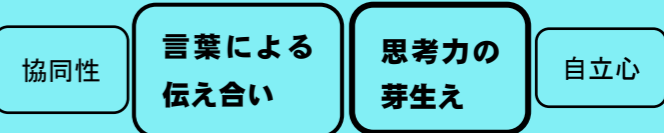
一方、A児のこまは、青色布テープに沿って、変わらずゆっくりにゆっくりに移動しています。自分のこまに目をやりながら、「ここ、ここ。ここだよ。」と、青色布テープを指さし、B児にこまを投げる位置を知らせています。これを聞いて、B児も、こま板に近づけてこまを投げてみたり、布テープにねらいを定めたりして何度もシュミレーションをしています。こまは、やっと3回目布テープの傍で回ります。やっとのことでテープ近くで回せ、願いが叶ったB児は、「ほら見て！並んでる。」とA児に喜びの声を伝えます。B児のこまは、布テープに沿って、A児のこまの後を追うようにゆっくりに動いていきます。

気づいたA児は「ブラボー、ブラボー！並んでる。すごいよ。」とB児の成功に応え、B児も「回ってるよ。ぼくのすごい。ブラボー。」喜びの瞬間を「ブラボー」で共有しています。
「わあ、どんだん下に行く。」「どこまで行くの？すごいかな？ブラボー」「ブラボー、止まらないで。ぼくのすごいよ。」「二人は、テープに沿って、並んで真つすぐに動いていくこまに「ブラボー」と、歓喜の言葉を繰り返して表出します。

こまが滑っていくと、腹ばいになりながら一緒に体を移動させる二人。こまに顔を近づけ「行け。行け。」「落ちないで」と語りかけます。落ちそうになると、息を吹きかけ軌道修正しましたが、A児のこまは、途中でこま板の外へ落ちてしまします。後から追いかけたB児のこまは、こま板の一番下まで滑り降りります。「わあ、着いた！」「えっ、すごい！」と、B児もA児も、布テープに沿って隅まで到着したことに驚いたり、喜んだりしています。

自分たちで楽しい遊び方を見つけるこま遊び、明日はどんな遊びを見つけるか、楽しみが広がります。

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿 「10の姿」



友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる。

事例から見られる10の育ち

思考力の芽生え

ひもが切れるほどこま回しに熱中するA児。代わりのひもは長く、「巻くのが面倒くさいけど長い時間回る」と、遊びの中でA児は、ひもの長さとおもひの秘密を発見する。
偶然、こま板の布テープの傍で回り始めたA児のこまが、テープに沿って真つすぐに滑り始める。「こんな所で」と、予想もしないこまの動きに驚いたA児は、こま板と布テープの段差を見つけ、こまが動いた跡を指先で確認する。
同じように回したいB児も、A児の声かけから布テープにねらいを定めたり、投げる位置を低くしたりしてこまを投げる。
ここには、遊びの中で見つけた秘密、新たな発見を喜びとしながらこま回しを繰り返して試す姿が見られる。

事例から見られる10の育ち

言葉による伝え合い

布テープに沿って偶然に回ったA児のこま。3回の挑戦でやっと布テープの傍で回ったB児のこま。自由に回るこまが、テープに沿って真つすぐに動く。今まで見たことがないこまの新しい動きを発見して感動する。しかも、自分たち二人のこまが願いたいおり並んで移動する二重の喜び。
この嬉しい体験の共有が「ブラボー！並んでる。」「ブラボー、すごい。」と感動や満足感を表現する言葉を生み、伝え合いを楽しんでいる。

思考力・言葉による伝え合い 環境構成のポイント

- こまのいろいろな遊び方を楽しめる環境構成
子どもが自分たちで移動できるサイズ、重さのこま板の準備 自分の持ちこま、ひも
- 環境の再構成 平面から斜面へ
こま板の環境準備
- 子どものこま遊びの楽しさを共有する保育者の存在
- 今までにないこまの動きを発見し、試したり、喜んだりする友達の存在